

気がつけば、今年ももう師走。振り返れば、地域医療の現場で日々ご尽力されながら、沖縄県医師会の活動にも多くの先生方にお力添えをいただいた一年でした。改めて、心より感謝申し上げます。

沖縄県内各地で開催された講演会や研修会、健康づくりのイベントなど、さまざまな場面で感じるのは“ゆいまーる”の心です。互いに支え合い、知恵と経験を分かち合う姿に、沖縄の医療の温かさと強さを改めて実感いたしました。

そのような中、8月17日に沖縄コンベンションセンター展示棟で開催された「第12回県民健康フェア」は、多くの来場者で賑わい、盛況のうちに幕を閉じました。テーマは「ゆいマールの輪でつなぐ健康長寿～笑顔あふれる100年しまライフ～」。まさに“ゆいマール(助け合い)”の心のもと、医療・行政・地域が一体となり、子どもから高齢者まで幅広い世代が健康を楽しみながら学ぶ一日となりました。

なかでも沖縄県医師会ブースは大人気で、OMOTOKAI MEDICAL TEAMによる「手術

体験」や心肺蘇生、気道確保体験コーナーには、将来の県医療を担うかもしれない子どもたちを中心に、多くの方が訪れました。また、おきなわ津梁ネットワークの紹介や、医師による健康相談、健康測定コーナーでは、血圧測定・血管年齢・糖化度・体組成・ベジチェックなどを実施。名桜大学ヘルスサポートの学生が丁寧に対応し、来場者が自分の身体の状態を“見える化”して確認できたと大変好評でした。

健康フェアは、単なるイベントではなく、県民一人ひとりが自分の健康を見つめ直し、地域とともに支え合うための“対話の場”でもあります。測定結果を手に相談に訪れる方、体操を楽しむ高齢者、手術体験に目を輝かせる子どもたち——そのすべての姿が、健康長寿社会の希望を映していました。

変化の多い時代ではありますが、島々を結ぶ絆と笑顔が、これから沖縄の医療をより豊かに育んでいくことを願ってやみません。どうぞ皆さま、お体に気をつけて、健康で穏やかな新年をお迎えください。

本年も一年間、誠にありがとうございました。

広報委員 高橋 隆

